

授業科目	認知・コミュニケーション障害支援学特別研究				
担当者	松井理直・井口知也				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	1年～2年	総単位数	10単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

認知・コミュニケーション障害支援学特論、特論演習で習得した知識、技能をもとに、実際の臨床現場における障害の事例に対して適切な考察と診断を行い、「修士論文」の完成を目指す。「修士論文」は、修士号を得るための一つの過程ではなく、その成果を直接臨床現場に還元できるものにする。また、障害を考察する上で、音響学的・生理学的検査機器に習熟することも目的の1つである。指導対象とする機器類や工学的技法の例を以下に挙げる。

(松井)

- ・動的パラトグラフィ (EPG) による調音動態の測定法とその解釈。
- ・音声の分析・剛成：音響的特徴から構音障害の特性を解釈する。また、調音結合等の情報処理について理解を深める。
- ・マイボイス：ALS など構音が困難な対象者様の代替音声作成技術について習熟する。

(松井・井口)

- ・人間作業モデルを用いた高齢者への介入効果に関する実証的研究を行う。
- ・認知症に関する事例研究を通じ、効果的な介入方法、介護負担感の低減等の実証的研究を行う。

(松井・井口)

修士論文：研究テーマは、言語障害・音声障害・音声に関わる聴覚障害に関するもので、実際にその成果を臨床現場における生活機能支援に還元できるものとする。また「修士論文」は、学生の職域における学術的特色や独創性、貢献度などを求める。なお、研究指導の過程で、当該学生の修士論文に該当する研究方法論や研究倫理を指導する。

■ 到達目標

修士論文

- ・専門領域の研究テーマについて文献の適切な収集、必要な実験・調査の的確な方法論構築ができる。
- ・研究結果について、論理的思考ができ、その思考を論文にまとめることができる。
- ・研究成果についての的確にプレゼンテーションできる。
- ・研究成果を社会に還元する術を説明できる。

■ 授業計画

修士論文

第1回～第15回

研究遂行に必要な研究方法論と研究倫理を指導する

研究テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握

関連文献や先行知見をもとに研究デザインを考え、研究計画書原案を作成する。

第16回～第30回

ディスカッションを繰り返し、研究計画書を作成する

先行研究に基づき研究計画の妥当性を検討し、研究計画書を完成させる

完成させた研究計画書を研究科委員会および研究倫理委員会へ提出、発表する。

第31回～第45回

研究計画書に基づき実験、調査または臨床試験を実施してデータを収集する。
収集したデータを解析して論理的な解釈を行う。

第46回～第60回

中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。
軌道修正を行いながら、実験、調査、臨床試験を実施してデータ収集を継続する。
収集したデータを解析して論理的な解釈を行い、論文を執筆する。

第61回～第75回

論文執筆とともに、追加実験、再分析、文献再収集等、必要な対策を実施する。
論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。

■ 評価方法

修士論文：研究過程と修士論文の内容を総合的に勘案して評価する。
課題研究：3例以上の症例報告書および課題研究報告書の内容によって評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習には先行研究の理解・論文執筆などにより、週20時間程度を要する。
復習は、技術の習得度合いにもよるが、週10時間程度を要する。

■ 教科書

書名：授業中に指定する

■ 参考図書

書名：授業中に指定する

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって